

犬山市かわまちづくり計画についてのご意見の内容と市の考え方

計画名	犬山市かわまちづくり計画(案)
募集期間	令和7年4月14日(月)～令和7年5月16日(金)
公開場所	市ホームページ、市役所1階ロビー、 観光課(市役所本庁舎3階)、各出張所、市立図書館
意見数	5件(提出人数は2名)

※ 提出された意見は原文のまま掲載しております。各項目における下段は市の回答です。

○いただいた意見・提案 <1>
川端沿いの犬山城をバックにした桜の時期のインスタ映えするホットスポットは素晴らしい場所ですけど、ご提案されているプランの中では、インスタ映えするような場所がなかったように見受けられます。また子供たちが少しでも関われるような場所を、例えば美術の作品を発表でき置いて展示できるような場所を設置すること、またストリートピアノなどを設置できるステージを用意されている点は良いと思いますが、市内にある4つの中学校や10の小学校が定期的に演奏会や発表会を開けるようなステージの用意や拡張できるようなステージがあると良いかと思われます。犬山中学校にある机腰掛け洗いの伝統行事が大変素晴らしいものです。そのような伝統や文化など新しいものが作られると良いかなと思われます。犬山はからくりや陶芸、また犬山城下町のため、甲冑や刀などの演舞を含めた方とのコラボレーションも良いのではないかなと思われます。
非常に参考となる取組みのアイデアをいただき、誠にありがとうございます。計画書の22ページに記載している基本コンセプトでは犬山三景「水景・城景・緑景」とし、水(木曽川)の恵みこそが地域や歴史、人の営みを繋ぎ、全体を繋ぐ基本資源であり、その上に城(文化)と緑(豊かな自然)があるという考えで定めて日本一美しい河畔にしていきたいとしており、当該地域における景観を最大限活かしていきたいと考えております。取組みとしては計画書の34ページに記載しました木曽川河畔遊歩道再整備事業のなかで、各種舗装の再整備などにより、市民の方が憩い活躍できる場にしていける場となるよう事業を展開し、地域の活性化へと繋げていきます。 本計画の対象が河川空間内ということもあり、増水時に対応できることが前提となり、常設的な工作物の設置が難しい場合がありますが、各種管理者とも協議を進めてご提案いただいた犬山市の皆様が活躍できるような場づくり、伝統や文化を活かした取組みなどに取り組んでいきます。

○いただいた意見・提案 <2>

ホテルインディゴ有楽苑ができたので、外国人の方の訪問も増えたと思われますが、昔の川端沿いの宿屋が多数存在していた場所を思うと、泊まりに来られるお客様がかなり少ないように感じられます。なので、夜泊まれたお客様が楽しめるような場所があると良いのではないかと思います。昼の観光客の方々が訪れるような場所は大変素晴らしいと感じております。

ご意見をいただいた内容での課題を認識しており、計画書の5ページではかつては旅館街の賑わいがあったことを記載しています。宿泊者の皆様が夜間のコンテンツを楽しんで宿泊者数の増加へと繋がるよう現在実施している「木曽川鵜飼」や「日本ライン夏まつり ロングラン花火」などの取組みをさらに磨き上げていくとともに、計画書の25ページに記載しているとおり各種ソフト施策を推進することで宿泊者の皆様が楽しめるような早朝やナイトタイムエコノミーの魅力づくりを実現出来るよう取り組んでいきます。

○いただいた意見・提案 <3>

また桜の時期になりますと、川端沿いをロードバイクで走られる方々が見受けられます。なので、この犬山の川端沿いを出発点として(集合場所にして)、一宮の方までのサイクリングロードを走られる方が少しでも増えてくれるような場所になれば良いのではないかと思います。またゆくゆくは将来的に犬山橋と犬山城の下の日本ライン大橋を含めた周回ルートでの散歩コースも良いのではないかと思います。また、犬山駅から城下町を散策された観光客の方が、犬山城を登り、その後、川端沿いを歩いて犬山遊園駅から帰られるルートも、また逆のルートも大変良いのではないかと思います。

ご意見の通り、様々な周遊ルートや広域的なネットワークづくりに取り組んでいく必要があると市でも認識しております。具体的には計画書の28・31ページの記載のとおり、「木曽川中流域観光振興協議会」への参画による木曽川中流域ならではの魅力づくりの推進するほか、木曽川中流域の12市町による「木曽川中流域自転車で繋ぐかわまちづくり」に参画し、木曽川中流域におけるサイクリングをテーマに近隣市町が繋がり、エリア全体での広域な魅力づくりを進めてまいります。

○いただいた意見・提案 <4>

また、この地域はまだ民泊をされている方が少ないように見受けられますので、その方たちが事業を行う上でも役に立つような施設、または交流場所、ルート、支援、周回手形等があれば、その店舗や地域のお店に行きやすいのではないかと思います。ホテルインディゴ有楽苑がありますが、イベントの数が少ないように思われますので、せめて1週間に1度でも何か地域の企業の方がイベントを行える場所が設置されてあれば、活気が生まれてくると思われます。バームクーヘンなどが新しく地域の特産に加わりで、また地元のビールや日本酒の工場もありますので定期的なスペインのバルのような店も少しずつあれば犬山の街が活気づくのではないかと思います。

民泊をはじめ、古民家の活用など多様な宿泊の形態で事業を展開している方が近年増加しています。計画書のP28に記載している回遊性の向上を実現出来るように事業者の皆様との連携していける取組みを推進することで犬山城下町の賑わいを市内の他地域へと分散していくことを目指していきます。また、犬山市観光協会とも連携しながら市内事業者の皆様と連携・協働していくことで本市の活性化に努めて参ります。

○いただいた意見・提案 <5>

- 1. 計画の有形・無形の効果を定量的に表示する
- 2. 竣工後の具体的効果を広く測り表示する
- 3. 寄与率は財政指数を何%押し上げるか示す

目標

- 1. 来訪者の消費額を現状の10倍に設定する
- 2. 車道は公園橋から内田交差点とし、人と車の動線を分離し、人の往来人口の面を増大する
- 3. 川面上のステージでかがり火。能やコンサートで昼夜を問わず長期滞在効果を演出する
- 4. 計画範囲内外を問わず、四季を通じて花鉢の出前で集客の倍増をし、木の定植はしない
- 5. 老若男女の健康思考より対岸へのサイクルロード・ランニング・散歩の専用レーンを設営する

ご意見頂きました日帰り観光消費額については、関連計画である観光戦略の目標値を採用しています(計画書の46ページ記載)。この数値は犬山市観光戦略策定時の2019年実績値より既に460円/人増加しており、当時に設定した令和13年度に目標に近付きつつあって堅調に増加しています。このため指標を見直して現状値よりもさらに10%増加を目標値として観光で賑わうことによる市内消費額の増加を目指しております。また、宿泊消費額については当時に設定した令和13年度目標を既に超えて、順調に推移しています。なお、この指標は犬山市全体の観光に関わる消費額であり、犬山市かわまちづくり計画に基づく取組のほか各種関連計画と連動して効果を発揮するものとするため、市の全体的な傾向をみて設定しております。

また、人の往来を増やすと共に安心安全に通行することは非常に重要と考えております。このため、計画書の34・35ページに記載しました「市道犬山395号線の改修」にて、歩行者空間を明示する舗装を整備し、自動車速度抑制対策など安全対策を実施を予定しています。

水上ステージの活用や植物による賑わいづくりなど、非常に参考になる取組みのアイデアをいただき、誠にありがとうございます。計画書の25ページに記載している「新たなソフト事業の展開」として対岸の各務原市と連携し、両岸での魅力と賑わいづくりにつながる催事を検討・実施していきます。特にサイクリング・ウォーキングのテーマにつきましては、計画書の28・31ページの記載通り、木曽川中流域の12市町による「木曽川中流域自転車で繋ぐかわまちづくり」に本市も参画し、サイクリングをテーマに市町が繋がり、エリア全体での広域な魅力づくりを進めていきます。